

令和 7 年度
「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立新森小路小学校
令和 7 年度 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

○令和6年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は77.0%であり、前年度を2.5p上回ったが、大阪市平均を4.5p下回っている。

○「廊下・階段は右側を歩いていますか」に肯定的に80%以上回答しているが、教職員とのギャップが大きい。

○令和6年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は80%であり、前年度を13p上回った。自己肯定感の向上を高める取組を年間通して行った結果である。

上記の結果より、違いを認めることができる児童、自分を好きになる児童を育てていく。違いを認めることができれば相手を尊重することができ、自分を好きになれば、自分も周りにも大切にできる。そうすれば、いじめはなくなると考える。

また、ルール(きまり)を守ることができる児童も育てていく。なぜ、ルールがあるのか、どうすればルールを守ることができるかということについて考えさせ、児童が自らきまりを守ることができるようにしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○学習が分からないから授業に集中できないといった傾向が見られる。また、学力経年調査で昨年度より上がった学年も学力の底上げができたとは言い難い。

○週1回以上のみんな遊びを取組内容の指標としたが、できていないクラスがあった。

上記の結果より、昨年度の学力経年調査分析結果を元に、児童の課題を明確にし、今年度の帯学習について考えていく。また、学力に課題のある児童を中心に据えた授業づくりをしていく。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和6年度、学習者用端末の利用状況は児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の約4%であり、指標を大幅に下回った。

○令和6年度、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合は58.5%であった。

○令和6年度小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は70.5%であり、前年度を1.7p上回ったが、大阪市平均を2.2p下回っている。

上記の結果より、いじめや不登校の早期発見・未然防止、学力向上のためにも学習者用端末の活用率を上げていく。また、長時間勤務を減らし、教職員が働きやすいと感じる職場にしていく必要がある。学力向上のためにも読書活動を今年度も継続して行う。児童が読書に親しむ機会が増えるような取り組みを検討する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の小学校学力状況調査で「学校へ行くのが楽しいと思いますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか。」の項目について肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の児童を、令和3年度より3ポイント以上減少させる。
- 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「ふだんの1週間について、体育の時間以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを合計で1日平均どれくらいの時間していますか。」の項目について、60分未満の児童の割合を20%以下にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の校内調査で「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している。」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- 令和7年度にゆとりの日を週に1回以上実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設置する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 78%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童の割合を 67%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を 60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

1. 安全・安心な教育の推進（最重要目標 1）

いじめの未然防止に関する心情育成では、「いじめは、どんな理由があってもいけない」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合が 79.6%（目標 78%以上）で目標を達成することができた。

しかし、きまりを守ること（学校のきまりを守っている）、自己肯定感（自分にはよいところがある）については 83.8%（目標 90%以上）、74.2%（目標 81%以上）で目標達成には至らなかった。特に、自己肯定感については、高学年ほど肯定的な回答が低下する傾向が見られ、次年度の重要な課題となっている。

2. 未来を切り拓く学力・体力の向上（最重要目標 2）

学力面では、国語の「書く力」に重点を置いた取組が顕著な成果を上げた。課題の見られる児童の学力を前年度より 1 ポイント以上向上させるという目標に対し、全学年で 1 ポイント以上の向上を達成し、学校全体では一人あたり平均 8.7 ポイントの向上を記録した。特に 3 年生と 5 年生の「書くこと」の項目では、大阪市平均を上回る結果（それぞれ 106.2%、106.8%）を得ることができた。

体力面でも、委員会による外遊びの呼びかけや「みんな遊び」の実施により、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童の割合は、85.4%（目標 67%以上）であり、運動への意欲向上が図られたと考える。

3. 学びを支える教育環境の充実（最重要目標 3）

教育 DX については、学習者用端末の活用日数が年間授業日の 79.6%（目標 50%以上）であり、目標を大きく上回った。

第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合は、55%（目標 60%以上）であり、教職員の働き方が課題となっている。

児童の読書習慣（読書が好きと回答した割合）は 66.5%（目標 72%以上）となり、目標に届かなかった。読書については、低学年では高い肯定率を示すものの、高学年での関心の低下が全体の数値を押し下げる要因となっている。

次年度に向けては、成果のあった学力向上の取組を継続するとともに、児童が自身の良さを実感できる場の創出や高学年の興味に応じた読書環境の整備、そして組織的な業務改善による教職員の負担軽減に注力し、学校教育全体の質の底上げを目指す。

大阪市立新森小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだ」という心情を育てる。</p> <p>指標</p> <p>・児童連絡会を年間20回以上行い児童理解に努める。</p> <p>・学期に一回以上、各クラスでいじめに関する教材を取り入れる。</p>	B
<p>取組内容② 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・自らきまりを守り主体的に行動することができる児童を育成する。</p> <p>指標</p> <p>・学期ごとにきまりを守る強化月間を設け、個人チェックを年3回行う。</p> <p>・児童アンケートにおける「廊下・階段は歩いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③ 【2 豊かな心の育成】</p> <p>各学年学級で、実態に応じた自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを行う。</p> <p>指標</p> <p>・ハイパーQUテストを年2回行い、児童理解に活用する。</p> <p>・児童アンケート・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>【年度目標の達成状況】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答した児童の割合は79.6%で、最重要目標1-①の78%を上回り、目標を達成することができた。</p>	

【取組の進捗状況の結果と分析】

(指標 1)

- ・年間 30 回 実施し、目標を達成した。
- ・児童の様子や悩み、友人関係についての情報共有が進み、早期対応に繋がった。

(指標 2)

- ・全クラスが 年間 3 回 (学期 1 回以上) の授業を実施した。
- ・道徳科や人権教育でいじめについて継続的に取り上げることで、児童の理解が進んだ。
- ・いじめに関する教材を取り入れた授業後の振り返りの深さには学級差があり、実生活との結びつきが十分でない場面が見られた。

取組内容②

【年度目標の達成状況】

- 小学校学力経年調査における「きまりをまもっていますか」に対して、肯定回答の割合が 83.8%で、最重要目標 1—②の 90%を下回り、目標達成には至らなかった。

【取組の進捗状況の結果と分析】

(指標 1)

- ・年間 3 回の強化月間を実施した。個人チェックを全学級で実施し、計画通りに達成した。
- ・指導強化期間に合わせて、教職員による声かけや掲示物の工夫が効果を上げた。
- ・アンケート結果と実態が一致しない場面が多く見られた。
- ・意識が高い児童は習慣化しているが、声かけがないと行動が緩む児童も一定数いた。

(指標 2)

- ・今年度の児童アンケートにおける肯定的に回答する児童の割合は 85.5% で、目標を達成することができた。

取組内容③

【年度目標の達成状況】

- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 74.2%で、最重要目標 1—③の 81%を下回り、目標達成には至らなかった。

【取組の進捗状況の結果と分析】

(指標 1)

- ・ハイパーQU を年 2 回実施し、個別支援の把握に役立てることができた。
- ・ハイパーQU の教員研修を通して、効果的に活用することができた。
- ・2 回目の結果が年度末に届くため、十分に活用できなかった。

(指標 2)

- ・児童アンケートでは 81.5%と目標を達成している。一方で、経年調査では 74.2%となっている。高学年ほど肯定的に回答する児童の割合は、低下する傾向がみられた。
- ・教職員は「自分の良さを言えない児童が多い」と感じているが、アンケート結果との間には意識の差が生じている。
- ・教職員の認識では、友人の良さを肯定できる児童は多いものの、「自分の良さ」については言及できない児童が一定数存在する。

次年度への改善点

取り組み内容①

(指標 2)

- ・ いじめに関する教材を、学年および学校全体で系統的に計画し、組織的に連携して実施する。

取り組み内容②

(指標 1)

- ・ 日常的な声かけ・環境整備を強化する。
- ・ 委員会活動と連携して廊下歩行の見守りやポスターづくり、校内放送での呼びかけなど児童が主体的に啓発できる機会を増やす。
- ・ 児童がつくったルール啓発動画やスローガンの活用を検討する。

取り組み内容③

(指標 1)

- ・ ハイパーQU は、3 年生以上が対象であることや費用対効果の検証の結果、来年度は実施しない方向である。

(指標 2)

- ・ 高学年児童の自己肯定感および自己有用感の向上を図るため、異学年交流の機会を計画的に設定し、実施する。
- ・ 児童一人一人の良さを認め、肯定的な関わりを充実させるために、学習場面に限らず、日常の様々な活動において、長所を見付けてほめる取組を継続的に実施する。

大阪市立新森小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童の割合を67%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学力に課題の見られる児童を中心とした取組を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上タイムを設け、週に1度「文章力を高める学習」を行う。 ・年6回、各学年「研究授業」を実施し、教員の授業力向上を図る。 	B
<p>取組内容② 【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが意欲的に運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをするような取組を実施する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが意欲的に運動に取り組むよう、運動委員会による外遊びの呼びかけ、集会委員会による遊びの紹介などを実施する。 ・各クラス週1回以上みんな遊びを実施する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>【年度目標の達成状況】</p> <p>○最重要目標2-①に挙げた「小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる」に対して、すべての学年で1ポイント以上向上させ、学校全体で8.7ポイント(一人あたりの平均)向上させた。</p> <p>【取組の進捗状況の結果と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通じて、各学年、学力向上タイムを設け、週に1度「文章を高める学習」を行うことができた。 <p><国語科の力をつけるために取り組んだこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年…短い文書を読んで、質問を出す。試写。絵日記。 2年…簡単な文章から情報を抜き取る練習。 3年…作文のワークシート 4年…100マス作文。漢字練習。

5年…1文をしっかりと書くためのトレーニング。漢字の復習。ミニ新聞を使ったまとめを書く。

6年…視写。ふりかえりジャーナルを書く。行事ごとに感想文を書く。

- ・経年調査の結果、3～6年のうち2学年が「書くこと」の項目で大阪市平均を越えた。
(3年生 対大阪市平均 106.2%、5年生 対大阪市平均 106.8%)
- ・計画どおり、年間6回の研究授業（その後の討議会・研修会も含む）を実施することができた。また、課題の見られる児童に対しての手立てを中心に考え、支援を図ることができた。

取組内容②

【年度目標の達成状況】

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童の割合が 85.4%となり、最重要目標 2-②の目標 67%を大きく上回り、目標を達成した。

【取組の進捗状況の結果と分析】

- ・委員会による外遊びの呼びかけ、年20回以上の集会、なわとびタイムや各学年でのかけ足の取り組み、ジャンピングボード、なわとびカードの活用により、意欲的に運動する児童の増加につながった。
- ・年度目標に挙げたことで、ほとんどの学年、クラスが週1回のみんな遊びを実施することができた。行事や学年の取り組みによってできない週もあったので、調整が必要である。

次年度への改善点

取組内容①

- ・週に1度の学力向上タイムで、「書く力」が高まったと感じている声がある一方で、10分間では効果的な取り組みが難しいと感じている教員もいた。10分間の限られた時間では、漢字の学習や基礎的な計算の方が、児童にとってより有意義な学習になるのではという意見もあった。しかし、この1年間行った「書く力」をつけるための取組により学力が向上しており、来年度以降も授業の中で取り組む必要性もある。今年度のワークシートや資料を保管しているので、次年度も適宜活用していきたい。
- ・今年度、経年調査で「書くこと」の項目が大きく大阪市平均を越えたクラスで、意識して取り組んでいることがあった。そういった取り組みを学校全体で共有し、児童の「書く力」をさらに向上させたい。
- ・教員の指導力向上を図るために、研究授業だけでなく多様なニーズに合わせた研修等を実施していく必要がある。

取組内容②

- ・継続して委員会による外遊びを促す放送、集会での遊びの機会、遊びの紹介を増やす。
- ・放送だけでなく、外遊びを促す掲示物などを作成する。
- ・遊びの種類を増やせるよう、多様な遊びを学年で共有できるようにする。ボールの使用時間を調整し、外遊びの意欲の高まりへつなげる。

大阪市立新森小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p> <p>③小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【6 教育DXの推進】</p> <p>週3回以上、「心の天気」を活用して児童理解に努め、デジタルドリルを朝学習等で実施して学力の向上に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p>	B
<p>取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員が働きやすい環境を整備し、長時間勤務の解消を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の教職員に業務が偏らないようにしたり、時間割を変更し放課後の時間を確保したりする。 学校閉庁日については、夏季休業期間は3日以上、冬季休業期間は2日以上設定し、実施する。 	B
<p>取組内容③ 【8 生涯学習の支援】</p> <p>読書に親しむ児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1度、読書タイムを設ける。 本を読んだ冊数に応じて、表彰をする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>【年度目標の達成状況】</p> <p>○最重要目標3-①に挙げた50%を大きく上回り79.6%となり、目標を達成することができた。</p>	

【取組の進捗状況の結果と分析】

- ・朝学習などで計画的にデジタルドリル等の活用をしてきた成果が見られた。一方で、「心の天気」の活用率は学年により差がみられた。
- ・学習者用端末の持ち帰りを3学期から実施しているが、計画的に端末を活用することで、活用の幅が広がった。

取り組み内容②**【年度目標の達成状況】**

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が55%となり、最重要目標3—②の60%を下回り、目標を達成するには至らなかった。

【取組の進捗状況の結果と分析】

- ・今年度から時間割を変更し、放課後にゆとりの時間を設けることで、児童と向き合う時間や教材研究の時間を確保することができた。
- ・学校閉庁日については、夏季4日、冬季3日を確保し、全教職員が取得できた。
- ・教職員が働きやすい環境が整備されつつあるが、長時間勤務の解消には課題が残る。

取り組み内容③**【年度目標の達成状況】**

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、66.5%となり、最重要目標3—③の72%を下回り、目標を達成するには至らなかった。

【取組の進捗状況の結果と分析】

- ・読書に親しむ児童は増えている児童は、経年調査や児童アンケートの結果より低学年では高かったが、学年が上がるにつれて低下している。学校全体としては、親しむ児童の育成が進んだとは言えない。

(R7年度経年「読書は好きですか。」肯定的回答

3年 71.3% 4年 71.7% 5年 64.3% 6年 58.8% 全体 66.5%)

(参考 2学期校内児童アンケート 1年 85.4% 2年 84.2%)

- ・週1回の読書タイムを実施することができた。
- ・図書委員会の取り組みとして、休み時間の図書室の開放を行い読書に親しむ活動を実施した。
- ・本を読んだ冊数に応じた表彰を、3学期末に実施した。

次年度への改善点**取組内容①**

- ・学習者用端末の持ち帰りを来年度からは毎日実施する予定である。今年度進めていた端末の持ち帰りの実施を継続させるとともに、活用の幅が広がるような学習者用端末の活用の在り方を検討する必要がある。
- ・学習者用端末の活用が常態化する中で、情報モラルを含めた学習者用端末のルール of 徹底を図ることも重要である。
- ・「心の天気」の実施を徹底することで、児童理解に努める必要がある。

取り組み内容②

- ・業務を更に分散し、一部の教職員に偏らないようにする。
- ・長時間勤務はまだ解消されていないので、時間割を改変したり、行事や会議を精選したりする。また、職員室前ホワイトボードに提示したセット時刻を厳守できるよう、計画を立てて仕事できるようにする。
- ・教職員が一人で問題を抱え込まないような体制を作るとともに、声をかけ合う。

取り組み内容③

- ・読書強調月間を生かし、読書ビンゴ、ジャンル別読書キャンペーンなど楽しめる取組を実施することで、継続して読書をする習慣づくりする必要がある。
- ・高学年は読書量にばらつきがあり、興味に合った本が見つげにくい児童もいたので、高学年向けのおすすめ図書の充実を図る。
- ・図書委員会による読み聞かせを行うなどして、読書に親しむ児童の育成に努める。